診療と栄養のチーム結成
地域の糖尿病治療に貢献

医療法人森和会 行橋中央病院 梅田（うめだ） 文夫（ふみお） 院長

福岡県京築地区で、糖尿病の治療に貢献している医療法人森和会行橋中央病院の梅田文夫院長。患者の高齢化への課題、合併症の対応など、どのような体制で治療に取り組んでいるのか話を聞いた。

―糖尿病治療にどのように取り組まれていますか。

内科中心で148床を有する当院は、日本糖尿病学会と日本老年医学会の認定教育施設となっており、リウマチの治療、人工透析などや、生活習慣病である糖尿病診療に積極的に取り組んでいます。院内の糖尿病内科、法人内のやまうち内科クリニックと2施設合わせて、糖尿病外来患者数は約1600人、入院は年間約300人ほどです。

近年の課題は、患者さんの高齢化が進んでいること。当院の外来患者でいえば平均年齢は68歳。高齢になるほど合併症を複数併発する患者さんが増えており、目（網膜症）や腎臓、神経、心疾患などの治療も同時に行わなければなりません。糖尿病のみの患者さんは、全体の半分にも達しません。当院の人工透析の患者さんは、その8割強が糖尿病の治療を併せて受けており、こちらも高齢化が進んでいます。

高齢の患者さんは、フレイル（虚弱）やサルコペニア（筋力低下、筋肉量の減少）の問題にも直面します。カロリー過多が主な原因の患者さんには、教育入院で食事制限などの治療を行いますが、逆に高齢の患者さんは栄養不足で栄養障害に陥っている方が多くいます。このことにもアプローチしないと、食事をされない患者さんが少なくありません。

そこで院内の医師や看護師、栄養士、薬剤師、リハビリ職、検査技師がメンバーとなったNST（栄養サポートチーム）で、回診やカンファレンスを行い、栄養障害のある糖尿病の患者さんに適切な栄養補給をしながら治療に当たっています。

1971年九州大学医学部卒業。カナダ・モントリオール大学附属臨床研究所留学、九州大学医学部第三内科准教授、同臨床教授、福岡市医師会成人病センター院長などを経て、2010年から現職。

当然、糖尿病の診療チームづくりにも取り組んでいます。ただ、当院は内科専門です。例えば外科的、眼科的な合併症を持つ患者さんには、京築地区内の外科や眼科などの専門医と連携しながら、治療に当たります。院内のみならず地域内での医療機関同士が連携した〝診療チーム〟です。

認知症の問題も深刻です。精神科の専門医がいれば良いのですが、現状はなかなか難しい。地区内の精神科の病院にお願いしていますが、精神科医が少ないのが課題ですね。

―人材育成は。

院長になって10年近く、特に取り組んできたのはCDE（糖尿病療養指導士）の育成です。看護師や栄養士、薬剤師、検査技師らのメディカルスタッフの資格取得を奨励しています。

CDEには、日本糖尿病療養指導士認定機構日本糖尿病療養指導士（CDEJ）と、各都道府県や各地域認定の地域糖尿病療養指導士（LCDE）の二つがあります。いずれにしても、糖尿病の患者数は多いのに専門医が非常に少ない現状では、CDEは治療の前線で大変貴重な存在となっています。医師だけでなく、メディカルスタッフにも、学会や勉強会の参加や発表を積極的に行うように奨励し、各自がスキルアップするように促しています。

当院は、臨床研究と治療の進歩を目指す福岡糖尿病臨床研究所を附設し、新薬開発の治験に協力しています。このような活動を通して、病院全体のレベルアップを図っています。

さらに、同法人に住宅型有料老人ホーム「こころ」があります。在宅診療がお望みの場合は、クリニックから往診し、後半の人生を安心して過ごしていただきます。介護が必要な方には住宅型有料老人ホームで対応します。

急性期から回復期、在宅診療、介護と、すべてを法人内で完結することにしています。地域の専門医とも協力して患者さんに安心していただける病院づくりに努めていきたいと考えています。

医療法人森和会 行橋中央病院
福岡県行橋市西宮市5―5―42
☎0930―26―7111（代表）
https://www.ych21.com/